

令和3年度



有志竟成

浜松市立北浜中学校

学校だより

令和3年7月21日

校訓：志を強くもってことにあたれば竟には成しとげられる

今日で、令和3年度の1学期が終了します。生徒の活動は、工夫をしながら原則実施するという考えで進めてきましたが、どの様に写ったでしょうか。保護者の皆さんに実施していただいた1学期の学校評価を参考に、学校としてしっかりと振り返りをして、2学期以降につなげていきたいと考えています。そんな中、保護者や地域の皆様に関わる行事等につきましては、自粛などの対応をさせていただいています。このことへの御理解・御協力に感謝致します。

子ども達は、授業、各行事、生徒会活動・委員会活動、そして部活動と生徒はそれぞれの場において、各学年の成長段階に見合った取組、活躍をしています。本校職員もその姿に勇気づけられながら、力を尽くしてくれていると感じています。明日から子ども達は、夏休みに入ります。地域におきまして生徒を見掛けましたら、声掛けをしていただければ幸いです。何か気になることがありましたら、学校まで御連絡をよろしくお願い致します。

校長 渥美 竜三

校長のつぶやき「親友が与えてくれた 大切なつながり」

先日、自分が小学校の頃からお世話になっている、現在は絵手紙の先生をしているある年配の女性の家を訪ねました。本当にたまにしか訪ねることはないのですが、一度訪ねると、昔のことから、現在の家のことや仕事のことなどたくさんのことを自然に話してしまう、心を休ませてくれるそんな人です。たくさん話す中で、「先日、ある絵手紙の生徒さんから『先生は、何の悩みもなく、ずっと明るく過ごすことができているように見える』と言われたの」という話がありました。自分とはとっさに「そんな悩みのない人は、どこにもいないのではないか」「どんな人も、いいこともよくないこともあるはずで・・・」と返答し、『自分や自分の周りに起こる様々な出来事を、どう捉え、どう受け止めて、過ごしてきたのかという有り様が、その人の見える姿に表れるのではないか』と心の中で思いました。

自分が訪ねた絵手紙の先生とは、自分が大学生の頃、オートバイ事故で亡くなった親友である同級生のお母さんです。旦那さんである親友のお父さんとも、一緒に話すことができました。お父さんは、つい数ヶ月前に、救急車で病院に運ばれたが、何とか緊急手術がうまくいって命拾いをした、奇跡的に後遺症もなく済んだということでした。知らなかった自分は、えっ、そんなことがあったのかととても驚かされました。

あの親友の事故当時のこと、葬儀での両親であるお二人の姿は、強く記憶に残っています。そのお二人は、その事故があった後、息子の同級生である我々を、中学生や高校生の頃と同じ様に、受け入れてくれました。20歳前の若者を、また会いに来たいという気持ちにさせてくれました。あれから40年たった今もずっと、家族のように、本当の息子のようにお二人と関わっている同級生が何人もいます。誰でもできることではないな、すごいなとずっと思っています。